



# 諏訪小だより

## 富士見市立諏訪小学校



令和8年2月19日学校だより NO. 11

校長 石井 勝博

### 殖（ふ）ゆと張（は）る

2月5日に行われた学校公開では、たくさんの保護者の皆様にご参観いただきましてありがとうございました。今年度は、暑さや感染症の影響で、引き渡し訓練を中止とさせていただき、学校公開も延期にするなど、計画通り進まず、なかなか学校に足を運んでいただけなかったこと、申し訳ございませんでした。学校としては、できるだけ数多く、子供たちの姿を見ていただけたらと思っていますので、来年度は工夫しながら計画通り進めることができるよう努めて参ります。

今年度も残すところ、約24日。子供たちも1年間の復習をしっかりと行っているところです。復習を行いながら、課題となっていることは何か、課題を明らかにしてしっかりと身に付け新しい学年に進めたいと思います。

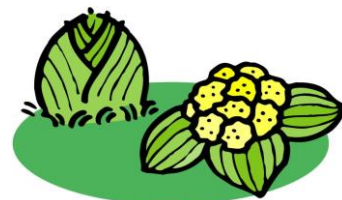
さて、立春（今年は2月4日）を過ぎ、少し暖かくなったかなと思っていたら雪が降り、まだ寒い日が続いています。

日本人は昔から、米などの作物を作り始める季節だから「春」という季節をととても大事にしてきたそうですが、同時に、春の前の冬も同じくらい大事にしてきたそうです。

冬というのは、自然や生命が「殖（ふ）える」という「殖（ふ）ゆ」からきた言葉だと聞いたことがあります。校庭の木々をみると、梅の木をはじめとして、木の枝にはたくさんのつぼみがついています。冬の間自然や生命がどんどん殖えて、つぼみとなっています。このつぼみが、はちきれんばかりにふくらんでくるのが春です。つぼみが「張る」のです。このはちきれんばかりに張って、外に飛び出してくる季節を「春」と呼んだそうです。木の芽や花が開いてくる季節を春と呼んだのです。花が咲くというのは、つぼみがもうこれ以上待ちきれなくなって、破れて外に現れ、花を開くということです。

話は変わり、少し前になりますが、シドニーオリンピックで金メダルを獲得した元女子マラソン選手の高橋直子さんが、座右の銘としている言葉は、「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」だそうです。素敵な言葉ですね。

2月、3月は、学年のまとめの時期です。それぞれの学年で学習したことを、しっかり蓄え、4月からの次の学習で大輪の花を咲かせてほしいと思います。



(歯磨き教室)



(おなか元気教室)